

Title	日本におけるSRIファンドに関する考察
Sub Title	
Author	頼, 怡彰(Rai, Ishiyou) 姉川, 知史
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2100号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2100">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2100</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	姉川 研究会	学籍番号	80431043	氏名	頼 怡彰
(論文題名)					
日本における SRI ファンドに関する考察					
(内容の要旨)					
<p>企業の社会的責任が問われつつある今、社会的責任を果たした企業に対して積極的に投資する社会的責任投資 (SRI) という概念も広がりつつある。その社会的責任投資から派生した金融商品の代表的な商品は社会的責任投資ファンド (SRI ファンド) である。SRI ファンドは 1999 年の導入以来今は 21 本のファンドが設定され、その中の 7 本は 2004 年中に設定されたものである。このように設定が順調に増えてきた SRI ファンドもそのファンド自体のパフォーマンスは研究者の目のとどまることはごく自然の流れであった。</p> <p>しかし、今までの研究は SRI ファンドのパフォーマンスに重点が置かれていて、SRI ファンドの投資家はどのように SRI ファンドと関わっているかに関する研究はインタビュー調査やアンケート調査でしか行われていなかったのである。また、SRI ファンドを運用しているファンドマネージャーは一般的なファンドを運用しているファンドマネージャーの運用態度は同じなのか或いは異なるのかに関する研究は今まででされてなかったのである。そこでこの論文では統計的、定量的な手法を用いて二つの仮説を設定し、仮説検証を通じて今まで行われていなかった SRI ファンドの投資家及びファンドマネージャーは一般的な投資家と同じ行動を取るか否かを検証する。</p> <p>具体的な仮説は 1. 「SRI ファンドの投資家はファンドに対する要求収益率は一般のファンド投資家よりも低い」 2. 「SRI ファンドのマネージャーは投資家の投資行動の影響を受け、比較的にファンドのリスクの操作を行わない」</p> <p>仮説の検証結果として仮説 1 の検証では SRI ファンドのリターンの増加によるフローの増減は SRI ファンドも一般のファンドも統計的に見ると差がなく、同じだという結果がでた。投資家からみると SRI ファンドも数多い金融商品の一種ということがいえる。この検証結果は投資家が SRI ファンドに投資しているだからといってリターンをあきらめたわけではないという点においては既存研究のインタビュー調査やアンケート調査の結果と一致した結果である。</p> <p>仮説 2 の検証では SRI ファンドのファンドマネージャーと一般ファンドのファンドマネージャーが前半期でリターンがあがったときに異なる行動を取るという結論が出ている。SRI ファンドのファンドマネージャーは前半期でリターンが上がれば最後の四半期でリスクを押さえる傾向があり、逆に前半期でリターンを確保できなければよりリスクを取る行動に出る。一方、一般的なファンドマネージャーの行動は SRI ファンドマネージャーのそれと逆という結果である。このような違いは前も説明したように恐らくこのようなファンドマネージャーの運用態度の違いは日本の投資家の投資態度の影響を受けていると考えられる。</p> <p>以上、SRI ファンドは投資家にとってはあくまでも金融商品の一つで、特別な位置づけでもなく、アクティブ運用の形式の一つとしてしか認知されていないようである。しかし、投資家はこのような認識しか持たないに關らず SRI ファンドマネージャーと一般的なファンドマネージャーの運用上の違いが出たのは恐らく既存研究のところで述べた既存研究の影響によるものと考えられる。</p>					